新緑醇 嗚呼季節の芳香満つこの北の大地に 移り行く天水渡る朔風厳冬の記憶を留めれどう。 ゆうかい きょう おもい とど 北斗遙かに広がれる波濤煌 緑萌す曠野には若き生命の息吹あり く水平線がいたいせん

新たなる夢を得て希望かなえん。

涼風そよぐ窓下には緑滴る原始林のまできず 北斗清かに見はるかす紺碧に滲む大空に気といる。 く光彩燦爛と短き盛夏を彩 りて

嗚呼季節の恵み満つこの北の大地に

しき情熱もて真理求めん

嗚呼季節の実り満つこの北の大地に 充足誘う黄昏に遠く彼方を見渡せば はいずるできる。 たそがれ とお かなた みわた 北斗豊かに色づける黄金色 しき力得て正義貫 かん の大沃野のだいよくや

北斗果でなく包み込む荒び飛び散る猛吹雪^{ほくとは}四

ひたすら拓くその迪に放歌笑声絶ゆるなし 物皆埋み凍てつかせ我らが前途閉ざせどもものみを含ず、い しき意識もて自治を築かん の憂愁満つこの北の大地に